

令和 3 年度

事業報告書

社会福祉法人 宇多津町社会福祉協議会

## 令和3年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

### 1. 概 況

少子高齢化が急速に進む中、わが国ではいわゆる「団塊の世代」が75歳以上となる2025年を目前に控えることから、介護を必要とする高齢者も安心して暮らせるよう、医療・介護・住まい・生活支援サービスの確保とその体制づくりが早急に求められているところです。

一方、3年目を迎えた新型コロナウイルス感染症は、昨年末には一時的に感染者の減少が見られたものの、年を明けてから現在まで感染者の報告において高止まりの傾向が続いている状況です。しかしながら、宇多津町ではワクチン接種について積極的に推進しており、今夏に4回目の接種が予定されています。

このような状況下、宇多津町社会福祉協議会は地域福祉の増進と介護保険事業の担い手として大きな責務を果たすべく関係者が一体となって取り組みを進めています。

令和3年度も互いに支え合う地域共生社会の実現を目指し、毎月各方面からの関係者による協議体（地域支え合い「陽だまりうたづ」）で協議を重ね、相談活動の充実に努めてきました。令和4年3月には、南部児童館すくすくスクエアの落成式に合わせ「よろず相談」を開催しました。その後はイベントや広報での啓発により、問い合わせが多数寄せられています。今後も、機会を得て取り組みの充実に努めてまいります。

社協資産については、介護収入の減少や各種の諸経費の増加等により年々減じている傾向の中、令和3年度については若干の執行残が発生しました。年度途中の退職者の関係であり、本来の活動による収入増ではないことから、今後も利用者等の増加を図るとともに、より魅力ある事業転換を見据えつつ、中期的視野による運営基盤の整備を図る必要があると考えています。

また、社協事務局における職員体制は、ここ数年職員の入退職が発生していますが、必要に応じ補充のための採用に努めています。今後も事業展開に見合った人材確保に努めるとともに、職場環境等の改善を図り良好な勤務体制のもと、さらなる宇多津町の地域福祉の推進・拡充に寄与していきたいと考えています。

令和3年度事業等の細部は、次の9項目を重点に実施しました。

- (1) 地域福祉活動の推進
- (2) 介護保険事業の充実
- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進
- (5) ボランティア活動の推進

- (6) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (7) 法人運営の強化
- (8) 権利擁護の推進
- (9) その他福祉活動への協力

## 2. 事業経過報告

### (1) 地域福祉活動の推進

#### ① ふれあいいきいきサロンの推進

高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行っている。

コロナ禍で会食ができない、集まらない、等で従来の活動ができなくなり、活動自体が衰退し、メンバーの高齢化も相まって、サロン数が減ってきている。新規申請もコロナ禍とあって先送りとなっている。

サロン代表者の後継適任者不足、会食やカラオケ等を含まないサロンの新しいあり方が今後の課題となっている。

年度ごとの箇所数は次のとおり。

年 度	箇所数
平成 2 9 年度	2 8
平成 3 0 年度	3 3
令和 元 年度	3 2
令和 2 年度	3 2
令和 3 年度	2 9

また、年 1 回のプログラムメニュー研修会はコロナ禍で実施を見送っているが、令和 4 年度は計画を予定している。

#### ② 共生型サロンの推進

昨年度に引き続き、毎月第 1・第 3 水曜日を定例として、地域で暮らす高齢の方、子育て中の親子や障がいのある方など誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも・とも」の活動を行ってきた。

コロナ禍により以前のような活動が難しく、また若年層の感染者の増加により親子での参加者がいなくなり、高齢者のみの会になっている。毎回参加される高齢者向けに、脳トレや笑いヨガ、折り紙などの作品作りなど感染対策をしながら実施した。

今年度も季節行事（流しソーメンと盆踊り）や餅つき大会はコロナ禍により活動が自粛されており、中止となった。

今後は、以前のように子育て中の親子も気軽に参加して、交流できる場に



なる企画を考え「とも・とも」を楽しみに集ってくださる方々の思いを大事にしながら、今後も地道に活動を続けていきたい。

＜みんなのサロン ともとも参加人数＞

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
子ども	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
高齢者	13	10	11	13	17	0	14	8	18	19	0	0
Vo・スタッフ	6	3	4	6	4	0	4	3	5	4	0	0
合計	19	13	15	19	21	0	20	11	23	23	0	0

※9月、2・3月はコロナ禍の影響により開催していない。

### ③ 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業

香川おもいやりネットワーク事業を生かし、社会福祉法人、社会福祉協議会、民生委員・児童委員との連携により、何でも相談できる窓口(福祉まるごと相談窓口)を町内に5か所(社協・陽だまり・寿楽荘・いきいき荘・マイルドハート21)設置するとともに、「巡回型福祉まるごと相談」として、民生委員、施設法人及び社協がチームを組み町内の居場所を訪問し、困りごとをキャッチする取り組みを行うなどアウトリーチの強化を図った。

また休けい所「陽だまり」を開設し、住民の居場所として週1回運営した。

### ④ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生委員・児童委員	毎週火曜日	0件
弁護士相談	弁護士 安西 敦	2カ月に1回	4件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	介護支援専門員、訪問介護員	月曜日～金曜日	148件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	4件
電話・来所相談	社協事務局	月曜日～金曜日	548件

コロナ禍の影響から収入が減少した世帯からの電話相談が増加した。弁護士相談は、1回6人の相談枠であるが概ね83%の相談実績であり、件数はやや増加となった。

### ⑤ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施している。新規借入件数は昨年度に比べ増加している。

令和2年3月末よりコロナ禍が影響し、収入が減少した世帯への貸付制度として「特例総合支援資金」、「緊急小口資金」の制度が追加となった。令和3年度も制度は継続されており、申請は予定終了期間を何度も延長している。

＜生活福祉資金貸付事業＞

借入資金の種類	3年度中 新規借入件数	2年度中 新規借入件数
総合支援資金	0	0
総合支援資金（コロナ特例）	89	43
緊急小口資金	1	6
緊急小口資金（コロナ特例）	70	118
臨時特例つなぎ資金	0	0
教育支援資金	0	1
福祉資金	1	0
不動産担保型生活資金	0	0
国民年金の任意加入を含む年金の貸付	0	0
計	161	168

⑥ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

（単位：人）

年度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成29年度	33	4	11	1	49
平成30年度	25	4	12	1	42
令和元年度	22	6	11	3	42
令和2年度	16	7	11	4	38
令和3年度	20	7	9	3	39

日常生活自立支援事業を利用開始時は判断能力があったが、年数の経過とともに判断能力の低下が見られる方の成年後見制度への移行等、親族と調整しながら対応していく必要がある。

⑦ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。老人配食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。

〈老人配食サービス〉

区 分	老人配食サービス事業	車椅子貸出事業	「陽だまり」お風呂
平成 29 年度	4,800 食（122 名）	4 2 件	7 名
平成 30 年度	5,515 食（132 名）	3 6 件	9 名
令和元年度	6,039 食（136 名）	3 8 件	8 名
令和 2 年度	6,087 食（136 名）	1 9 件	9 名
令和 3 年度	6,250 食（141 名）	3 1 件	6 名
備 考	毎週水曜日（月 4 回）		#1:月・水・金 #2:火・木・土

また、共同募金の助成金による高齢者見舞金配布事業として、民生委員・児童委員の協力を得て、年末に 80 歳以上の一人暮らし高齢者に対し 3 千円を配布した。

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし高齢者（80 歳以上）
平成 29 年度	1 8 8 名
平成 30 年度	2 0 3 名
令和元年度	2 0 3 名
令和 2 年度	2 1 4 名
令和 3 年度	2 0 7 名

⑧ ファミリー・サポート・センター事業

＜令和 3 年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳＞

登録会員数 (R3.4～R4.3 末)	おねがい会員	2 7 8 名	合計 4 2 5 名
	まかせて会員	1 0 2 名	
	どっちも会員	4 5 名	
活動実績 (R3.4～R4.3 末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	①保育施設等への前後の預かり		5 5
	②保育施設等への送迎		9 3
	③児童クラブへの前後の預かり		3
	④児童クラブへの送迎		1 9
	⑤子どもの習い事等への送迎		5 4
	⑥自宅・祖父母宅への送迎		7 5
	⑦保護者等の仕事の際の援助		4 3
	⑧保護者等の求職活動中の援助		1
	⑨保護者等の外出の場合の援助		3
	⑩公共交通機関への送迎		2
	⑪保護者等の病気・通院のための援助		1
	⑫保護者等の冠婚葬祭・その他急用の場合の援助		1
	⑬保護者等の職場への送迎		0
合 計			3 5 0



令和３年度も新型コロナウイルスの影響を受けているものの、感染状況の波もあって活動依頼は前年度から倍増している。新規の依頼や毎月固定した継続依頼は、変わらない状況にある。

子どもの保育園や幼稚園が休園や学級閉鎖になった際に利用したいとの依頼や登録・問い合わせは多いが、全ての会員やそのご家族へのリスクを考えお断りしている。新規の依頼、自宅での預かりもまかせて会員やどちらも会員が感染対策にご協力して頂いているおかげで問題なく活動できている。

子どもを預かることのできる方（まかせて会員・どちらも会員）の新しい成り手の拡充を図るとともに、現会員の研修時間が厚生労働省の推奨する研修時間数を充足するよう、会員に講座の受講を促すとともに、預かり時の事故防止等について、引き続き講習会を実施していきたい。

＜令和３年度研修会、交流会回数と内容＞

(単位:回、人)

	回 数	参加人数	内 容
研修会	1	1 2	養成講座
交流会	1	2 9	ファミサポ会員交流会
講演会	0	0	実績なし

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止と利用者の健康及び安全の確保を優先し、スキルアップ講座や3月に予定していた会員ミーティングは中止

#### ⑨ 地域支え合い推進（生活支援体制整備事業）

現在３期目の協議体（地域支え合い「陽だまりうたづ」）も新型コロナの影響により地域の様々な活動が休止・中止となり、人との接触も控えられる状況が続いたため、活動方針が定まらない状況が長く続いていた。

そのような中、令和３年度は外部講師を招いた内部研修を行い、あらためて協議体活動の意義を共有し、地域に住む住民同士のつながりが大切であることを再認識することができた。

活動としては、第１回出張相談会を協議体構成員で行った。宇多津町南部すくすくスクエア落成式では町民来場者のお困りごとを聴く「よろず相談」を開催し、傾聴ボランティア・地域民生委員も参加して、町民の相談に個別傾聴する形で実施することができた。相談件数は２件で、町営住宅への転居希望や仕事探しという内容であった。同時に来場者へ、地域に不足する資源の聞取りも行ったところ、「地域助け合い」が不足している回答が多く寄せられた。このことから、協議体は今後も住民同士のつながりが大切であることを共有し、地域の実情に応じた支えあいや助け合いが充実するよう、取り組みを進めていくこととする。

## ⑩ 子どもの未来応援事業の推進

子ども食堂運営事業「陽だまり食堂」は、コロナ禍のため毎月1回の開催ができなかったが、代替の行事として学校の臨時休業中に弁当配布を行った。8月の夏休み企画と12月の冬休み企画を開催し、小中学校のスクールソーシャルワーカーと連携しながら、新たな困窮世帯の子どもにも参加を促進することができた。また、前年度に参加していた世帯も参加してもらうことができ、支援が必要な世帯に対して弁当配布を行うことができた。

今後もコロナ禍でも行える行事を探し、ボランティアとともに「地域で子どもに関心を持つ人や、見守る人の目を増やすこと、家庭・学校以外の子どもの居場所をつくり、子どもを一人にさせないこと、子どもが様々な大人と関わる機会・体験を増やすこと」を目指していく。

行事に組み込んだレクリエーションでは、寄付いただいた商品券で「千本引き」を行ったり、ガラポンで大きなサイズのお菓子の特賞を設けたりするなど工夫を凝らした。町内の豆腐業者からはおやつを購入し、地域業者としても食堂継続に関わっていただいている。参加費はおとな300円、子ども100円で、参加者数の実績については次のとおりである。

次年度も、参加者や保護者にもアンケート調査を実施し、ニーズを把握するとともに、ボランティアや関係機関との話し合いを持ち、今後の陽だまり食堂の運営について協議し、さらなる充実を図っていきたい。

### ＜令和3年度子ども食堂運営事業 参加者数実績＞

(単位:人)

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子ども	0	0	0	0	14	0	0	0	40	0	0	0
おとな	0	0	0	0	29	0	0	0	15	0	0	0
ボランティア	0	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0

## ⑪ うたづっこ育児用品レンタル・サポート事業の推進

宇多津町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の経済的負担を軽減することを目的に、チャイルドシート、ジュニアシート、ベビーカーのレンタル事業を行っている。

### ＜令和3年度育児用品保有数と利用数＞

(単位:台、数)

	購入台数	寄付台数	合計保有数	返却数	貸出件数	年度末在庫
チャイルドシート	0	4	92	43	43	6
ジュニアシート	0	3	15	7	10	3
ベビーカー	0	6	51	23	27	3

レンタル事業品のメンテナンスや延滞に対する対処の課題があるが、育児用品の寄付については、広報誌に掲載すると反響があり、必要とする方にお



譲りできている。この事業が円滑に進むよう家庭で不要になった育児用品の寄付受けについて、引き続き広報誌等で協力を依頼していきたい。

## (2) 介護保険事業の充実

### ① 訪問介護事業（ホームヘルパー）の充実

前年度までは、利用者の逝去や入院及び施設入所、介護保険改正による収入減少などにより利用減少の傾向が継続していた。令和3年度は少しずつではあるが新規利用者が見られたために収入が11.3%増となっている。

＜訪問介護事業の事業収入及び利用者＞

(単位:千円、人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成29年度	9,548	▲19.4%	351	606
平成30年度	8,677	▲9.1%	329	426
令和元年度	7,559	▲13.0%	363	288
令和2年度	5,716	▲24.4%	274	361
令和3年度	6,364	11.3%	315	328

### ② 居宅介護支援事業の充実

令和3年度の延べ人数は前年741名から272名への減少で63%減であり、事業収入は前年約7,017千円から3,199千円への54%減となった。

令和3年度は、令和3年3月末と12月末に専門職員が退職したことによる他事業所への引き継ぎ契約終了、利用者の施設入所や逝去による契約終了のため、件数が激減した。

現在は他業務との兼務で他事業所への移行が難しかった利用者2名のみとなっている。

居宅介護支援事業所として、今後も利用者がその地域において、その有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように支援をしていく必要がある。現在は他業務との兼務のため新規受け入れが難しい状態であるが、今後改善していきたい。

＜居宅介護支援事業の事業収入及び利用者＞

(単位:千円・人数)

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成29年度	7,125	11.6%	754
平成30年度	6,960	▲2.3%	814
令和元年度	7,349	6.0%	824
令和2年度	7,017	▲4.7%	741
令和3年度	3,119	▲54.4%	272

### ③ 通所型サービスA事業所の充実

利用者は3名（火曜日2名・木曜日1名）であり、家庭的な雰囲気で行なうデイサービスを楽しみに利用いただいている。事業収入については、令和2年度426,800円から令和3年度469,680円と若干の増額となった。施設の構造上利用者の大幅な増加は見込めないが、地域包括支援センターとの連携のもと、本施設の利点を生かした丁寧なサービスの提供など、利用者増に資する検討を重ね、本サービスの充実発展を期していく。

## （3） 障害者自立支援事業の充実

### ① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護については、利用者の逝去などにより前年度より少しではあるが減少している。移動支援についても同様である。また同行援護については、利用者の利用頻度が増えたために僅かな増加となった。利用者の加齢とともに障害者自立支援事業から介護保険への移行も考えられることから、各相談支援事業所への働きかけが今後必要であるとともに事業拡大のため、登録ヘルパーの人材確保の継続が必須である。各年度のサービスごとの収入の結果は、次のとおりである。

（単位：千円）

区 分	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
平成29年度	1,149	220	471	0	1,840
平成30年度	1,008	230	0	0	1,238
令和元年度	965	221	0	0	1,186
令和2年度	1,468	273	10	0	1,751
令和3年度	1,137	212	55	0	1,404

## （4） 生活困窮者自立相談支援事業の推進

### ① 包括的かつ継続的な相談支援

生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、DV、障害等が折り重なって、複合的な問題を抱えており、本人だけでなく世帯全体が困窮しているため、世帯全体の支援に志向し、継続して取り組んでいる。また、コロナ禍でもあり、困窮相談件数が多くなっている。

相談実績は以下のとおりである。

（単位：件）

区分	年間合計	男性	女性	～10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	不明
相談件数	30	16	14	0	4	6	12	4	3	1	0



## ② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮については、福祉教育や個別支援を通じて理解者を地域に増やしていくことで、支え合いの輪を拡げ、誰もが住み易く、排除しない地域を創造していくことが重要である。支える側と支えられる側が互いに支え合える地域づくりを目指した。

## ③ 香川おもいやりネットワーク事業の推進

宇多津町社会福祉協議会が社会福祉法人施設や民生委員・児童委員と繋がり、支援を必要とする方を「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくることで、「香川型福祉でまちづくり」を目指している。

会議の開催状況は次のとおり。

〈香川おもいやりネットワーク事業 宇多津担当者会 開催状況〉

開催日	場 所	会議内容	参加者
R3. 11. 12	あみのうら交流センター	・香川おもいやりネットワークの現状について ・現状と今後の活動について	社会福祉法人 4名 民生・児童委員 1名 保健福祉課 1名 包括支援センター 2名 社会福祉協議会 3名
R4. 2. 8	コロナの感染拡大により中止		

地域協力活動	R3. 4. 20	巡回型福祉まるごと相談
	R3. 5. 25	巡回型福祉まるごと相談
	R3. 11. 12	おもいやりネットワーク会議
	R3. 11. 26	巡回型福祉まるごと相談
	R4. 1. 13	巡回型福祉まるごと相談
	R4. 2. 8	おもいやりネットワーク会議（中止）
	R4. 3. 7	第8回「地域支え合いうたづ」
	R4. 3. 24	よろず相談

## （5） ボランティア活動の推進

### ① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。坂出青年会議所と連携し、顔の見える関係づくりを行った。加入団体は23団体となっている。



## ② 福祉・ボランティア体験の推進

「うたづっこふくしセミナー」の開催、「福祉体験学習」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

夏休み中学生ボランティア体験学習及びボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

### a 夏休み中学生ボランティア体験学習

例年多くの学生がボランティアに参加し、受け入れ先も充実していたが、令和3年度もコロナ対策で活動自体に制限がかかり、受け入れ先が限定されたため、駅前清掃のみの活動となった。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	開催日	場 所 等	学 習 内 容	参加人数
1	R3.8.1 8.15	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	92名

### b 勇心酒造㈱ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行事業の取組みは、全国的に注目されている。宇多津町内小・中学校応援プロジェクトと連携し、住民総ぐるみで子どもたちの成長を応援し、子どもたちはボランティア活動をとおして思いやりの気持ちを育くんでいる。

#### (a) ハート数の推移

令和3年度のボランティア銀行の預金額は、758,942 ハートとなり、これまでの推移は以下のとおりである。

年 度	ハート数
平成29年度	934,606 ♡
平成30年度	908,558 ♡
令和元年度	733,744 ♡
令和2年度	700,487 ♡
令和3年度	758,942 ♡

また、各学校のハート数は以下のとおりである。

学 校 名	令和3年度(ハート)	令和2年度(ハート)
宇多津小学校	273,272 ♡	163,030 ♡
宇多津北小学校	462,470 ♡	498,607 ♡
宇多津中学校	23,200 ♡	38,850 ♡
合 計	758,942 ♡	700,487 ♡

(b) ボランティアハートの贈呈先一覧

学校名	贈呈先	贈呈品
宇多津小学校	みんなで咲かそう花の会	花植え事業活動資金
	レスパスラボ	子ども食堂運営資金
	社会福祉協議会	災害 VC シミュレーションゲーム
宇多津北小学校	ボランティア推進委員会	駅前清掃活動資金
	老人クラブ連合会	みんなのハロウィン活動資金
	社会福祉協議会	車椅子・歩行器・集音器等購入
宇多津中学校	民生員児童委員協議会	オレンジリボンキャンペーン事業
	社会福祉協議会	生活困窮者自立支援用食料等

③ 防災研修会の開催

災害ボランティアセンターを速やかに立ち上げ、運営できることを目的として、令和3年8月と令和4年2月に防災研修会の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

(6) 福祉関係団体等活動協力と連携

① 民生委員・児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生委員・児童委員との連携・協働は重要不可欠であり、相談事業をはじめとして、香川おもいやりネットワーク事業、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人配食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施している。今後とも、相互の会合及び研修等に積極的に参加し、より緊密に連携を継続していくこととする。

② 老人クラブ連合会・身体障害者協会への参加協力

事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の提供を行った。

(7) 権利擁護の推進（法人後見事業）

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者など意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が成年後見人等となり、その権利を擁護するための事業を平成29年4月より開始している。

今年3年度は、令和3年6月に第1回法人後見運営委員会を開催した。  
現在の受任件数は3件である。

## (8) 法人運営の強化

### ① 自主財源の確保

自主財源確保には香典返し等寄付金の使途の明確化を進める必要があるため、周知・広報に努めている。令和3年度も新型コロナウイルスの影響を受け、香典返し寄付金・一般寄付金ともに低調な傾向が続いている。

年度ごとの状況は次のとおりである。

#### <寄付金の推移>

(単位:件、円)

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成29年度	6	220,000	10	179,000	399,000
平成30年度	5	200,000	9	174,480	374,480
令和元年度	2	600,000	5	80,296	680,186
令和2年度	0	0	9	438,000	438,000
令和3年度	4	110,000	5	143,985	253,985

令和3年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から、企業訪問などの積極的な加入促進を見送ったため、前年の60%弱の実績となっている。会費の使われ方を法人、団体、個人に明確に詳細に説明し、共感していただくことに努め、今後の会員の増加に努めていきたい。

#### <会員数の推移>

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	法人会員	会 費
平成30年度	24 名	62 団体	203 名	72 法人	608,364 円
	165 口	878 口	543 口	1,420 口	
令和元年度	24 名	72 団体	265 名	82 法人	680,300 円
	190 口	1,611 口	439 口	1,571 口	
令和2年度	25 名	66 団体	17 名	2 法人	368,300 円
	190 口	1,332 口	73 口	95 口	
令和3年度	22 名	75 団体	18 名	2 法人	409,700 円
	188 口	1,698 口	58 口	95 口	

### ② 広報・啓発活動（情報誌「社協通信」の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し、町広報と同時に配布した。

### ③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に積極的に



参加した。今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修その他業務遂行に有益と思われる研修についてはできる限り参加し、専門知識の取得を図っていく。

(9) その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、募金活動に参加した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティー即売会等の募金活動が実施できず、目標額 5,540,000 円に対し 4,614,678 円を集め、県共同募金会に送金した。

また、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を1月1日から3月31日まで実施し、目標額 1,300,000 円に対し 1,692,844 円を集め、県共同募金会に送金した。

本町への助成金は地域福祉推進事業として、2,233,248 円、小・中学校応援プロジェクト事業として 1,620,123 円であり、以下の事業を実施した。

災害見舞金の実施はなかった。

<社会福祉協議会事業への助成>

番号	事業名	事業内容	助成額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用(1団体 年間1.2万円～2万円)	180,000 円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア連絡協議会活動費用 開催費用	43,248 円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	80歳以上の1人暮らし高齢者のお見舞金費用	250,000 円
4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	120,000 円
令和3年度 社会福祉協議会事業 助成額合計			593,248 円

<各種団体への助成>

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	子育て支援推進事業 (ボランティア「モコモコ」)	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	90,000 円

2	身障者外出支援事業 (身体障害者協会)	身体障がい者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動	30,000 円
3	外出支援事業 (老人クラブ連合会)	高齢者の外出を支援することにより社会参加を促し、ひきこもりを防止し、仲間づくりを行う。	30,000 円
4	子育て支援事業 (あおやま保育園)	園が発信する情報を通して、地域福祉活動に関心が高まり、家庭、保育園、地域が連携し、子育ての輪を大きく広げられる。	180,000 円
5	子育て支援事業 (青山幼稚園)	日除けを取り付けることで、園児が靴箱や手洗い場を使用する際に、暑さを緩和させることができる。	160,000 円
6	環境衛生推進事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴミブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	112,500 円
7	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	就労支援している事業所の見学研修を行い、これからの暮らしについて考え、活動の輪を広げる。	70,000 円
8	生活発表会用楽器購入事業 (平山こども園)	新しいスネアドラムは良く響き、園児の肩に食い込まない構造なので、マーチング体型移動に子どもたちが集中でき、演奏の上達が期待できる。	100,000 円
9	障がい児支援事業 (NPO 法人メロディー)	講演会を開催することによって、これまで知らなかった知識を得ることができ、「共感」が生まれる。	150,000 円
10	子育て支援事業 (香川短期大学附属幼稚園)	収納台車を購入することで、出し入れの時間が少なくなり、園児の遊ぶ時間を長く取れるようになり、子どもたちが満足いく活動時間を確保できるようになる。	70,000 円
11	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにこにこ)	月に2回手話サークルを開催する。将来は、講演会等で手話通訳ができることを目指す。	30,000 円
12	障害者支援事業 (ドリームパラダイス)	掃除機が老朽化し、吸引力が下がっている。また、利用者が使用するには重く、使いにくいので、扱いやすい掃除機が必要	100,000 円
13	傾聴ボランティア養成事業 (傾聴ボランティア「コミコミ」)	傾聴ボランティア養成講座を開催し、傾聴の理念、技法を学ぶ。	3,200 円
14	子育て支援事業 (わかくさ保育園)	最近では、楽器の故障や、良い音色が出ないものがある。新たな音色と出会うことにより、子どもたちの演奏への意欲の向上を図る。	140,000 円



15	子育て支援事業 (わかくさ北こども園)	楽器の購入により、新たな音色と出会うことができ、年長児が演奏することによって、自信をつける効果が期待できる。	150,000 円
16	国際文化交流事業 (せとうち国際文化の会)	子どもたちを含めたボランティアガイドを養成することで、外国人への理解にもつながり、身近に国際交流ができる。	90,000 円
令和3年度一般募金助成合計額			1,505,700 円

<小・中学校応援プロジェクト募金助成金>

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	宇多津小学校を元気にする大画面モニター設置事業 (宇多津小学校)	正面玄関にテレビを設置し、学校の活動や取り組みを動画にして放映する。振り返りをする事で、新たな活動や児童の意欲に繋がる。	298,430 円
2	あいさつの花を育てて、宇多津の町を花いっぱいにする活動 (宇多津小学校)	あいさつを啓発する植木鉢を作成し、「あいさつの花をさかせよう」を合言葉に、直接児童が地域住民の皆様に植木鉢を持っていき、募金のお礼と、あいさつをひろげようとする気持ちを伝える。	8,000 円
3	横断旗購入事業 (宇多津小学校)	横断旗を購入することにより、児童の通学が安全になり、また、保者間の交流、親睦を深めることができる。	13,890 円
4	宇多津北っこがんばりカードの作成事業 (宇多津北小学校)	目標を立て、取り組んだ成果を実感できるようにするためのがんばりカードを作成する。日常的なゴミ拾い活動やあいさつ運動、読書活動の記録にも使用し、意欲的に取り組むことができる。	29,700 円
5	トランペット鼓笛隊の衣装購入事業 (宇多津北小学校)	放課後の特別クラブとしてトランペット鼓笛隊が位置づいている。衣装の予備がなく、サイズが合わない児童がいるため、体形に応じて選択できるようにしたい。	84,000 円
6	陸上クラブのユニフォーム購入事業(宇多津北小学校)	年々陸上クラブに入り、体力向上に取り組む児童が減少している。新しいユニフォームを1つのきっかけに、目標を持って練習に取り組む児童を増やす。	114,400 円



7	自転車を安全に乗るための 自転車用交通安全シートの 作成・配布事業 (宇多津北小学校)	4年生で実施している自転車の交通安全教室終了時に配布する。自転車に装着することで、常に安全な乗り方と整備を意識できるようにする。	66,000 円
8	創立30周年記念制作パネル 作成事業 (宇多津北小学校)	創立30周年を記念し児童が集う「ときめきひろば」の看板文字に1人1人がメッセージを書いて完成させる。皆で作り上げることで、愛着のある場所、学校にする。	340,000 円
9	グッドカードバッジ作成事業 (宇多津中学校)	善い行い、積極的な活動、あいさつ等に頑張った生徒に、グッドカードバッジを手渡し、より一層の善行活動につなげる。	99,693 円
10	陸上競技ユニフォーム 購入事業 (宇多津中学校)	香川県総合体育大会に出場する選手が着用できるユニフォームがないため、新たに購入する。	10,450 円
11	ボランティア銀行事業 (社会福祉協議会)	小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって、地域とのつながりが強くなり、ボランティア活動を通じて思いやりの気持ちを育む。	555,560 円
令和3年度プロジェクト募金助成合計額			1,620,123 円